

木崎中だより

9号

令和2年1月8日（水）
さいたま市立木崎中学校
048(886)4302

「事を行う」

校長 大谷 慎也

明けましておめでとうございます。保護者・地域の皆様におかれましては、初春にふさわしい天候が続く中、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、本校の教育活動にご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。お蔭をもちまして、本日第3学期始業式を迎えることができました。誠にありがとうございます。3学期は、令和元年度のまとめと同時に次年度への計画づくりの時期です。2学期の終業式後に行った表彰では、多くの生徒が体育館のステージに上がりました。1・2年生も先輩の伝統を引き継ぎ、着々と実績を積み重ね、頼もしく感じております。

さて、昨日は「七草」でした。普段は食卓に上ることがまれな7種の若菜が入ったお粥を召し上がった方も多かったと思います。古代中国の無病息災を願い、7種の野菜の入った汁物を食べて占う正月7日の行事「人日の節句」が我が国に伝わったと言われています。『万葉集』や『土佐日記』等にある「若菜摘み」の風習と結びついて、江戸時代には公式行事になったとも言われています。正月の行事は、「初詣」「書初め」「鏡開き」等、15日（場合によっては20日）の「小正月」まで数多くあります。昔から元旦には、「年神様」が各家庭を訪れるとされています。「年神様」は、各家庭を守る神、田の神、山の神であり、子孫繁栄や五穀豊穡をもたらす神です。「年神様」を迎え入れ、幸せや健康を授けてもらおうと様々な行事が生まれ、現代に伝わっています。「明けましておめでとうございます。」のあいさつも、年を無事に越して「年神様」を迎えられたという喜びや旧年の平穏無事や豊穡への感謝の表れと言われています。今も多くの家庭で、おせち料理を食べたり、お年玉をあげたりしていますが、由来をたどっていくと、幸せや健康、平和を願ったり、感謝したりする行事に何らかの関係があるようです。

2学期の終業式の中で、生徒や職員に次のように述べました。「新しい年を迎えるにあたり、2週間の冬休みは学習や生活を振り返る良い機会です。また、グローバル化や情報化の進む中、行く年来る年のいろいろな行事に参加することで、日本の伝統文化や風習を味わえる良い機会ともなります。ぜひ、何気ないことにも目を向け、視野を広げてみてください。」

日本には、四季折々に様々な行事が行われます。その季節が移り変わる節目に喜びや感謝、願いを込めて形にしていく、つまり「事を行う」ことによって、皆でより良く生きていこうと志を再認識して、日々の生活を営む新たな活力を分かち合ってきたのではないのでしょうか。3学期始業式に臨み、引き締まった3年生の顔をはじめ、木崎中学校の新たな息吹を感じました。

「寒の入り」となりました。この一年間が、生徒、保護者の皆様、地域の皆様にとりまして、幸せな年となりますことをお祈り申し上げるとともに、教職員一同気持ちを新たに教育活動を推進してまいりますので、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。